



ウズベキスタン

48 地方3空港近代化事業(1)(2)

A
B
C
D

主要3空港(サマルカンド、ブハラ、ウルゲンチ)の整備・近代化により、国際空港としての機能と安全性向上を図り、もって同国の観光開発を促進し、外貨獲得、経済発展に寄与する。

承諾額/実行額	183億8,700万円/178億2,200万円
借款契約調印	1996年12月、1999年12月
借款契約条件	金利2.7%(1)/2.2%(2)、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	2001年12月、2003年1月



外部評価者 前川晶(インテムコンサルティング(株))
現地調査 2003年11月

評価結果

本事業では、予算制約も勘案し、優先度に応じた事業内容の調整を行ったが、異常寒波による滑走路の亀裂に対する追加補修工事等に伴う追加借款を供与し、諸設備はほぼ計画通り完成した。期間については、滑走路の追加補修工事等、事業内容の見直しなどによって計画を上回ったが、事業費はほぼ計画通りであった。同時多発テロ等の影響により旅客数(約23万人)は伸び悩んでいるものの本事業によって、3空港とも国際民間航空機関(ICAO)基準を達成し、空港の安全性は向上した。また、国際線の就航便数は1996年の約370便から2002年には約460便へと増加した。同国を訪問する外国人観光客数は、96年は約3万人であったが、02年は約8万7,000人と増加しており、同国の観光開発に寄与している。3空港が所在する3県の02年のGRDP(域内総生産)は、対前

年比2~7%上昇し(国は4%)、空港開発は約484万人の人口をもつ3県(サマルカンド約232万人、ブハラ約132万人、ウルゲンチ約120万人;福岡県は約500万人)の経済発展に一定の寄与をしていると考えられる。実施機関であるウズベキスタン航空の技術、体制、財務面については問題はない。今後、旅客数を伸ばすために空港所在地の観光開発や外国航空会社の時刻表見直し等が望まれる。

第三者意見

本事業は、古都へ通じる3カ所の空港を国際基準に沿うべく整備・近代化したものであり、治安問題等の課題が解消されれば観光開発を通じた経済成長が期待できる。

有識者 Ms. Flora Salikhova

コロラド大学修士課程修了(経済学)。現在世界経済外交大学国際経済学部講師。専門は国際経済、マクロ経済。

サマルカンド空港管制塔およびターミナルビル



ウズベキスタンはシルクロード観光の中心地であり、豊富な世界的観光資源を有している。

ICAOとは?

国際民間航空機関(ICAO:International Civil Aviation Organization)は、国際民間航空条約(通称シカゴ条約:加盟国187カ国)に基づき設立された国連の専門機関の一つで、本部をカナダ・モントリオール市に置いている。ICAOは国際民間航空の安全かつ秩序ある発展を目的に設立されており、その活動も国際航空の安全確保、保安対策強化、環境保全対策のほか、事故の際の旅客や地上の第三者に対する賠償責任のような国際民間航空の法的枠組の確立、国際航空運送にかかわる経済的側面に関するガイドラインづくり、各締約国の民間航空安全監視体制に対する監査事業、技術協力など多岐にわたっており、これまで世界の民間航空の発展のための屋台骨を担ってきた。